

3 5 「国連 E S D の 1 0 年」最終年會合開催に向けた準備等について

(内閣官房、外務省、文部科学省、環境省)

【内容】

- (1) 最終年會合を安全かつ円滑に開催し、多くの成果を上げ、世界から高い評価を受ける會議とするため、開催地と連携して万全な準備・運営体制を構築すること。
- (2) E S D 推進の意義を広く国内に浸透させるとともに、開催機運を盛り上げるため、開催地と連携した取組を推進すること。

(背景)

「国連 E S D の 1 0 年」(2 0 0 5 年 ~ 2 0 1 4 年) は、持続可能な開発に関する世界首脳會議(2 0 0 2 年、ヨハネスブルグ・サミット) で日本政府が提唱し、ユネスコが推進するもの。その 1 0 年間の活動を総括するため、最終年の 2 0 1 4 年に日本で最終年會合が開催されることとなった。

昨年 9 月に開催された関係省庁連絡會議において、愛知県・名古屋市が、閣僚級會合及び全体の取りまとめ會合の開催地として決定された。(各種ステークホルダーの主たる會合の開催地は岡山市に決定。)

当地では、本年 5 月に、県、名古屋市を始めとする県内市町村、地元経済界、教育関係機関等で構成する支援実行委員会を設立し、會議の安全で円滑な運営をサポートするとともに、開催機運の盛り上げや、會議の開催をきっかけとした E S D の普及啓発や取組の促進を図る。

こうした地元の取組を推進するにあたり、主催者である日本政府との連携が不可欠である。

「 E S D 」とは :

持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development) の略語で、環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

(参 考)

「国連 E S D の 10 年」最終年會合の概要

開催時期：2014 年秋

開催場所：愛知・名古屋

主 催：国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、日本政府

参加規模：1,000 人規模（ユネスコ加盟国は 195 カ国）※2012 年 4 月現在

内 容：各国の 10 年間の E S D に関する取組の報告や取りまとめなど

形 式：閣僚級會合、全体會合、分科會など



名古屋国際會議場
(會場予定地)

地元の取組状況

- | | | |
|--------------|------|--------------------------------------|
| 2005 年 (H17) | | ・「国連 E S D の 10 年」開始 (~ 2014 年まで) |
| | | ・愛知万博の開催 |
| 2010 年 (H22) | | ・生物多様性条約第 10 回締約国会議 (C O P 1 0) の開催 |
| 2011 年 (H23) | 1 月 | ・愛知県が誘致表明 |
| | 4 月 | ・誘致委員会準備会を設置 |
| | 6 月 | ・誘致委員会を設置 |
| | | ・国に開催提案書提出 |
| | 9 月 | ・関係省庁連絡會議において開催地決定 (愛知・名古屋) |
| | 11 月 | ・知事、議長がユネスコ本部 (パリ) を表敬訪問 |
| | | ・支援準備委員会を設立 |
| 2012 年 (H24) | 5 月 | ・支援実行委員会を設立 |